

たて いわ いせき 立岩遺跡

たていわいせき しょうかい
ぼくが立岩遺跡を紹介するよ！



いしぼっちくん

1 たていわいせき 立岩遺跡って？

飯塚市の北側に位置する立岩丘陵には、弥生時代（今から約 2400 年前～ 1800 年前）の遺跡がたくさん集まっています。これらをまとめて、「立岩遺跡」と呼びます。弥生時代の王様のお墓など貴重な資料が多く発見されました。飯塚市を代表するとても重要な遺跡のひとつです。

2 いせき どんな遺跡があるの？

他にもたくさんの遺跡が
みつかっているんだよ！



しものかたいせき 下ノ方遺跡

1934（昭和 9）年に発見されました。お米を収穫する道具である「石庖丁」がたくさん発見されました。中には未完成のものもあることから、この場所で石庖丁が作られていたと考えられます。

たていわうんどうじょういせき 立岩運動場遺跡

1933（昭和 8）年に立岩丘陵ではじめて発見された遺跡です。甕棺墓などが発見されました。



発掘調査の様子

たていわぼったいせき 立岩堀田遺跡 いづかししいせき （飯塚市指定史跡）

1963・65（昭和 38・40）年に発掘調査が行われ、「甕棺墓」が約 40 基も発見されました。その中の一つはこの地域を治めていた王の墓と考えられています。



甕棺墓を発見

用語解説

遺跡（いせき）

私たちがくらししている地面の下を掘ってみると、昔の人々が作ったものや建物の跡、お墓などが発見されることがあります。そういう場所を遺跡とよびます。

弥生時代（やよいじだい）

今から約 2400 年から 1800 年前の約 600 年を弥生時代とよびます。大陸（主に朝鮮半島）から稲作や金属が伝わるなど大きな変化があった時代です。

甕棺墓（かめかんぼ）

弥生時代に登場した土器の棺に、亡くなった人を入れる埋葬方法です。弥生時代に、北部九州で流行しました。

副葬品（ふくそうひん）

亡くなった人を埋葬する時に、一緒にお墓に埋める品物です。その人が生きていた時に使っていたものと思われるアクセサリー、銅鏡、武器などがあります。

3 立岩堀田遺跡の王墓

10号甕棺墓

立岩堀田遺跡で発見された甕棺墓の中で、ひときわ重要なものが10号甕棺墓です。大きな石で蓋をされた甕棺の中には銅鏡や武器などの貴重な品が副葬品として納められていました。埋葬されていたのは成人の男性で、豪華な副葬品から身分の高い人＝この地域を治めていた王の墓であると考えられます。

10号甕棺墓の中の様子



28号甕棺墓

甕棺の中からガラス製のアクセサリなどが発見されました。埋葬されていたのは、占いなどをおこなう特別な成人の女性と考えられます。



髪飾りのイメージ



髪飾りが発見された時の様子

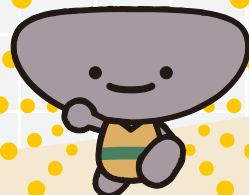
34号甕棺墓

発見された甕棺墓の中でも特に大きな甕棺墓です。人骨がきれいな状態で残っており、身長166cmの30代の男性であることが判明しました。腕には、南の島でしかとれない貝で作られた腕輪がつけられていました。



34号甕棺墓の人骨

銅矛や銅鏡を持つことで身分の高い人々は自分の力を示していたんだよ！



下ノ方遺跡で見つかった石庖丁

4 いしぼうちょう せいさんきょてん 石庖丁の生産拠点

お米の収穫に欠かせない
ぼくたちが北部九州中で大活躍！

立岩遺跡の発展を支えたよ



立岩丘陵上の遺跡からは、石庖丁の未完成品が多く見つかりました。このことから、立岩丘陵上でたくさんの石庖丁が作られていたことがわかりました。さらに、立岩遺跡で作られた石庖丁が、北部九州の各地からも見つかり、遠く離れた地域にまで運ばれていたことがわかります。



笠置山山麓（千石峡）

立岩産石庖丁の特徴

立岩遺跡で作られた石庖丁は、独特な小豆色をしていることが特徴のひとつです。石材は、輝緑凝灰岩といって、立岩遺跡から北西に約5km離れた笠置山の山麓（千石峡）で採集することができました。

